

令和7年度

試験名： 推薦入試

【人間学群 教育学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
	I. 出題意図 本問題は、Osler, A.& Starkey, H. (2010). Teachers and Human Rights Education. Trentham Books Ltd. の一部を抜粋したものである。日本語訳として、『教師と人権教育：公正、多様性、グローバルな連帯のために』（藤原孝章、北山夕華監訳）が 2018 年に明石書店から出版されている。 人権を尊重する教育をいかに行うべきかという問いは、第二次世界大戦後の国際社会にける大きな課題となり続けている。戦争や紛争、人種・性別・障害等による差別といった国内外の諸問題に取り組む際にも、人権や個人の権利を起点とした議論は依然としてその重要性を失っていない。日本においては、2000 年代に入ってようやく人権教育の推進に向けた施策が具体化してきたが、近年では、2015 年の 18 歳選挙権の導入に加えて、2022 年のこども基本法の成立や翌年のこども家庭庁の創設など、若者や子どもの声を政治に反映させようとする機運が高まってきている。しかしながら、学校において人権教育等を通じて、若者や子どもが自身がもつ権利について学び、それを行使する機会を与えることについては、いまだに十分な取り組みがなされていない状況にある。問題文の原著が発行されたのは 2010 年ではあるが、人権教育に関する問題点を的確に指摘していると考ええる。 問題文は、やや専門的な語彙を含むものの、比較的平易な言い回しが用いられており、注釈や前後の文脈から情報を補って十分に内容を理解することができる。そのため、本学類生に求められる英文読解力を受験生が有しているかどうかを判断するための適切なテキストであると考ええる。その内容を正確に読み取ると同時に、人権と教育に関する課題について具体的に考えることができるかを問い、受験生の学力の程度を確認することが出題の意図である。問4は、問題文で提示されている内容から各自が論点を設定して考察することを求めており、それを通して、受験生の論理展開力と文章表現力をみるものである。 II. 配点・解答例 問1 [解答例] (この部分は、著作権の都合により公開できません) 問2 [解答例] 人権教育が批判的思考や正義のために立ち上がることを促すのではなく、学習者の従順さや単純にお互いに仲良くすることを教えることにとどまっているということ。また、このようなアプローチでは、生徒同士が権利を尊重するのではなく、問題のある行動を互いに非難し合うことを促す可能性があること。

問3

〔解答例〕

グローバル化の過程において、同じような信条や価値観を共有しているわけではない、多様な社会的・文化的背景をもつ人びとと一緒に住んだり、働いたりすることになること。また、すべての生徒が住んでいる国の国民ではないかもしれないこと。そのため、単一の国民的・文化的・宗教的な伝統に基づいた枠組みが適切ではなくなること。

問4